

Frontview

の誘致による「知の集積」を図り、周辺を自動運転でつなぐ新たな交通手段の導入なども視野に入れた先進的なまちづくりを推進。また、同地区の菊陽杉並木公園北側には、スケートボードなど若者に人気の「アーバンスポーツ」の専用施設や町民グラウンドを整備。世界的企業の進出を追い風に、原水地区一帯を町が目指す「日本一のまちづくり」の拠点とする考えだ。

三里木〜原水駅間に新駅

駅を中心とした同町の市街地整備計画を後押ししたのが、JR豊肥本線の新駅設置である。JR九州は、TSMCの進出を契機とした人口増加に加え、



▲若者に人気のスケートボードなど「アーバンスポーツ」

を楽しめる専用施設を整備する菊陽杉並木公園周辺(写真右上)

豊肥本線三里木〜原水駅間の新駅設置に係る覚書締結式



▲覚書を交わした吉本町長(中央)とJR九州の中野幹子執行役員熊本支社長(右)。左は田嶋徹副知事(23年12月18日、菊陽町役場)

空港アクセス鉄道の開通による豊肥本線の乗客増加で新駅設置のメリットがあると判断。23年12月18日、同町と新駅設置に向けた覚書を締結した。新駅の予定地は、JR三里木駅から原水駅方面へ約1・3km

道の機能強化、利便性向上にもつなげる。鉄道施設は2025年度、駅舎や駅前広場などの周辺施設は26年度の工事着手を目指し、開業は27年春の予定。総事業費約16億円は同町が全額負担する。

原水地区に

駅を中心に大規模

アーバンスポーツ施設

市街地整備 "日本一のまちづくり"の拠点に

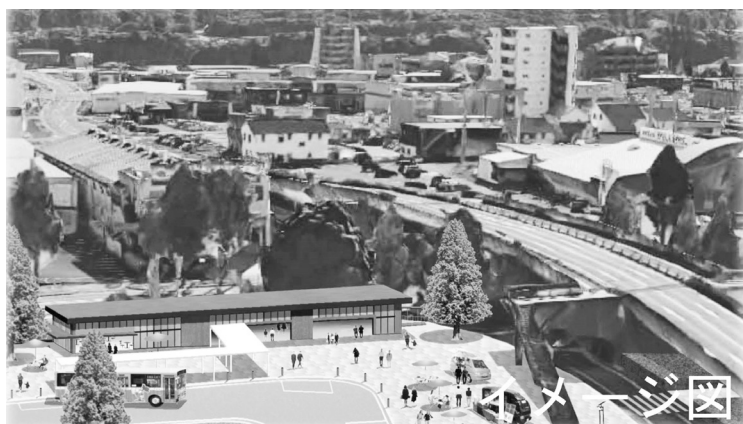
菊陽町

世界的半導体メーカー台湾積体回路製造(TSMC)の進出による半導体関連産業の集積が進む菊陽町(吉本孝寿町長)は、今後の経済発展や人口増加に対応するため、JR豊肥本線三里木駅〜原水駅間に新駅を設置するとともに、町民の憩いの場や新たなにぎわいの拠点として、アーバンスポーツ施設などを整備する。さらに、原水駅〜新駅間の原水地区一帯約68・9haで大規模な区画整理事業を実施し、駅を中心とした市街地整備を進める。
(編集部・甲木昌宏)

渋滞緩和にも寄与

「原水駅周辺土地地区画整理事業(仮称)」と銘打ったこの取り組みは、新大空港構想に掲げる「地域活性化」に位置付けられ、空港アクセス鉄道の整備効果を高めるとともに、TSMC進出に伴う関連産業の集積が進む同地域の職住近接を実現し、県全体で進める渋滞緩和にも寄与することを目的としている。

計画では、JR原水駅および三里木駅〜原水駅間に計画中のJR新駅周辺を中心とする原水地区一帯の約68・9haに、大規模な宅地開発をはじめ、商業施設やホテル、マンション開発でにぎわいを創出するほか、大学や企業の研究・サテライト施設



▲新駅のイメージ図。開業は27年春の予定(写真・菊陽町提供)

新駅周辺には町民の交流施設「菊陽杉並木公園さんさん」や温泉施設、レストラン、農産物直売所を備えた町総合交流ターミナル「さんふれあ」があり、その隣接地には23年10月に町総合体育館が開館。現在は24年度末完成予定でテニスコートの整備が進み、近隣には商業施設やマンションなどが集積することから、町は1日当たりの利用客を約900人と想定している。

Frontview



▲国内に40万人もの愛好者がいるスケートボード

全体の敷地面積は約6万㎡。アーバンスポーツ施設(敷地面積約2万㎡)、町民グラウンド(同約2万6千㎡)、共用駐車場(同約1万2千㎡)、管理事務所(同約400㎡)、屋外トイレ、周辺インフラ(道路、下水道、電気設備などを整備する。24年度に詳細設計を行い工事に着手し、開業は26年度を予定している。

経済効果9.9億円

中核となるアーバンスポーツ施設は、スケートボードの大会や練習ができる施設を常設。初心者が遊べるフリーエリアも設け、地元住民が気軽に足を運べ

アーバンスポーツは21年の東京オリンピックで正式採用され、パリ五輪ではブレイキンが新競技として追加されることが決定。その中でもスケートボードは、東京オリンピックで「ストリート」、「パーク」の2種目で金メダル3つを含む、計5つの

国内40万人の愛好者

総事業費は25億円。主な財源は国土交通省の社会資本整備総合交付金を活用。町が策定した都市再生整備事業計画に基づき、政府の23年度補正予算で総事業費の約4割に当たる9億9600万円が交付された。

るようにする。町は年間来場者を14万人、経済波及効果を9.9億円と試算している。その他の競技スポーツは大会やイベントに応じて専用の仮設設備を用意するなど多様な競技を楽しめる運用を想定。各施設の詳細については、同公園のスポーツ広場やふれあい広場、総合体育館など既存施設との連携をはじめ、JR新駅や原水駅周辺土地地区画整理事業(仮称)の今後の開発状況なども踏まえ決定する。



2023年12月時点における構想図であり、完成予想図ではありません。完成イメージ図は2024年夏ごろ公表予定です。©2010熊本県くまモン

▲同町原水地区の菊陽杉並木公園北側に整備するアーバンスポーツ施設のイメージ図。奥は町民グラウンド(町提供)

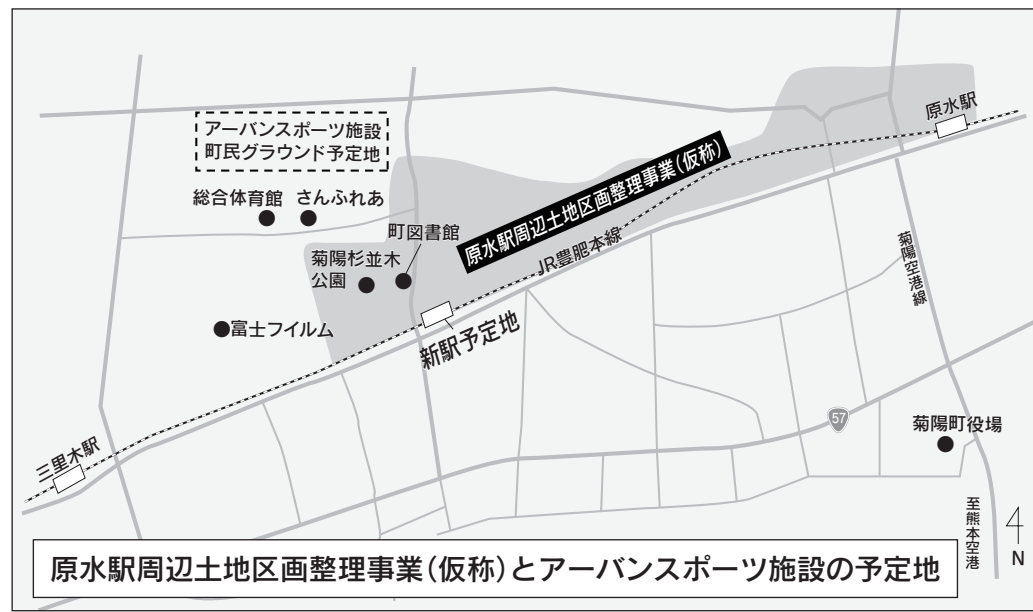
九州最大規模のスケートパーク

開業は26年度予定 交流人口拡大へ

一方、新駅に近い菊陽杉並木公園北側には、若者に人気のスケートボードなど「アーバンスポーツ」を楽しめる九州最大規模の専用施設を整備。隣接地には現在、町役場隣りにある町民グラウンド(野球場、ソフトボール場)を移設し、同エリアを「スポーツと観光」をテーマとした町の新たな顔とする考えで、若者に人気のスポーツ施設を核に、大会やイベント開催などを通して交流人口の拡大を図る。

様々な用途で利用されてきた同公園を拡張し、将来的には「菊陽町総合運動公園」として運営・管理する計画。

この事業は「菊陽杉並木公園拡張整備事業」の中核施設となるもので、これまで地域住民の憩いの場や子どもたちのスポーツ大会など多



原水駅周辺土地地区画整理事業(仮称)とアーバンスポーツ施設の予定地

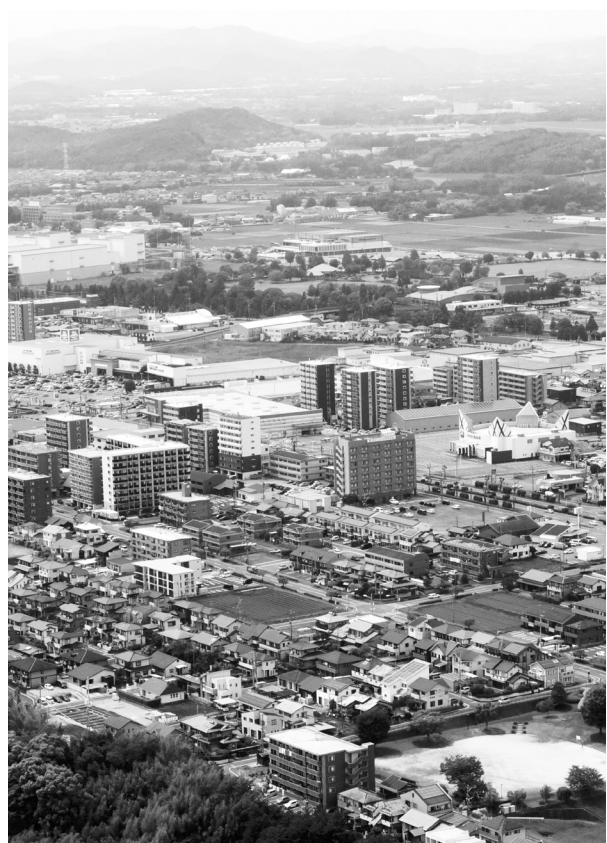
メダルを獲得。男子ストリートの堀米雄斗選手や日本選手で史上最少の金メダリストとなった西矢栞選手など、男女ともに10〜20代選手の活躍で同年代の若者を中心に大きなブームを巻き起こし、国内には推定で40万人もの愛好者がいると言われている。

さらに、県はスポーツツーリズム推進戦略の中で、将来性の高いアーバンスポーツを基本戦略の一つに掲げ、国際大会やイベントなどの誘致を進めている。こうした背景から、町は県と連携し、共同で国際大会やイベントの開催、競技人口の拡大

など、アーバンスポーツの振興を目指す考えだ。

県と連携協定締結へ

同町の小牧裕明副町長は「施設は菊陽町が整備するが、この施設を県が活用し、大会誘致やアーバンスポーツの機運醸成を図る。同時に関係団体の強化などの役割を県が担い、菊陽町がそのフィールドを提供するといった連携を構築し、アーバンスポーツの裾野を拡大することで事業効果を高めたい。県とはそうした内容で年度内に連携協定を結ぶ方向で協議を進めている」と話す。



▲住宅や商業施設の集積が進む菊陽町。写真奥が菊陽杉並木公園周辺